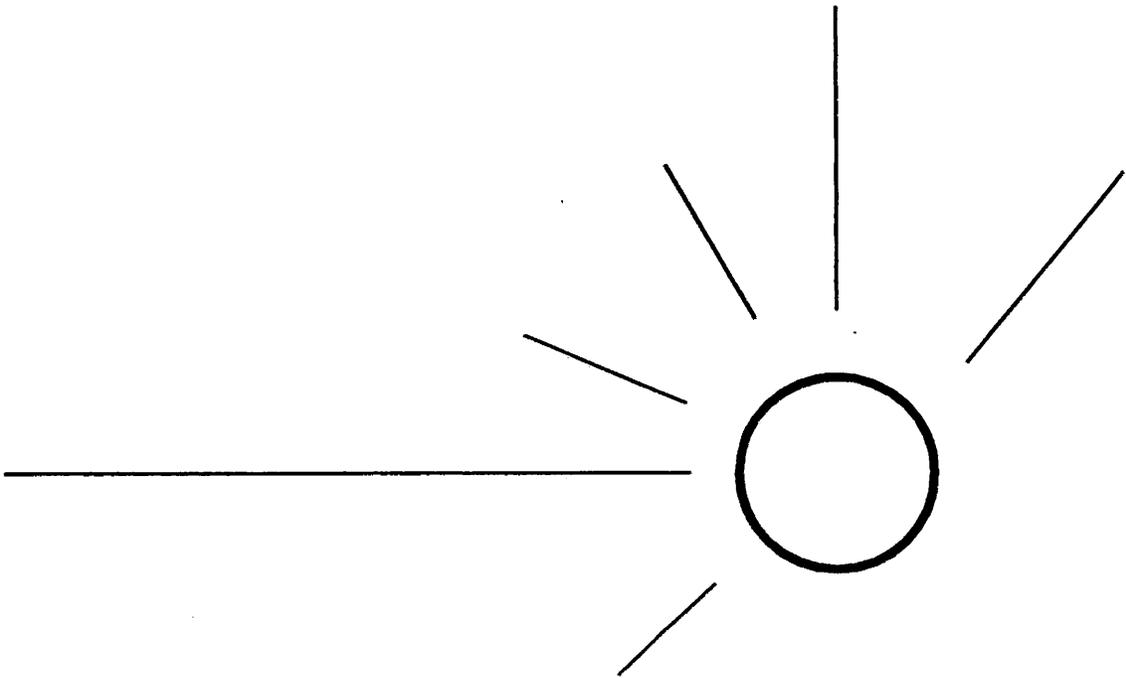


6



ごあいさつ

本日ここに「京都フィロムジカ管弦楽団」定期演奏会を開催するにあたり、ご多用にも拘わらず、多数の方々のご来場をいただきまして誠にありがとうございます。

この定期演奏会も、回を重ねること第6回目となりました。

今回は、指揮者に高谷光信氏をお迎えし、先生方のご指導のもと、ますます努力と研鑽を積み重ね、本日ここに魅力あふれる曲の数々を披露してくれるものと期待しております。皆様にはその努力の結実を演奏の中にお聴きいただければ幸甚に存じます。

最後になりましたが、京都フィロムジカ管弦楽団の為に、物心両面にわたるご支援を賜りました皆様方をはじめ、ご指導下さいました先生方に厚く御礼申し上げますと共に、定期演奏会のますますの発展を祈りまして、ご挨拶とさせていただきます。

京都フィロムジカ管弦楽団顧問 和田之宏

本日は京都フィロムジカ管弦楽団第6回定期演奏会にご来場いただき誠にありがとうございます。

1900年代が終わり2000年を迎えました。まもなく21世紀です。社会全体がこの大きな節目を再考・再生の好機と捉え、既に世紀末の厭世観を過去のものにしていきます。私たちフィロムジカは若い世代が運営の軸になることを楽団の性格の一つに掲げていますが、若さゆえの大胆で斬新な発想を期待しつつ、一方で、初心を忘れず、新しさの母胎となる古きをたずねなければならぬと考えています。これまでの日本や京都のアマチュアオケの文化を振り返りつつ、自らの楽しみ以外に私達はフィロムジカに何を求め、あるいはフィロムジカによって何を体現していくのか、不断の模索を続けて行こうと思えます。

指揮者の高谷先生には、過去にベートーヴェンの交響曲第7番を指揮していただいていたのですが、今回はベートーヴェンの4番をメインに据えました。年末に行う演奏会ではマーラーの第5番に取り組むことになっており、そのため次回はショスタコーヴィチに初挑戦致します。大きな作品が続きますが、学びつつ楽しみつつ取り組み、また皆様に来て頂けるような演奏会をしたいと切に思っております。

最後になりましたが、ご指導ご鞭撻を頂きました各トレーナーの先生方、また陰で支えてくださっている関係者の皆様にご心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

京都フィロムジカ管弦楽団団長 小林香



演奏家のための
ミツマの直輸入弦楽器
直輸入でいいものを安く。
修理・調整もお任せください。
Violin Viola Cello

弦
特
価



インターネットで音楽情報！【クラシック音楽情報センター】<http://www.musicinfo.com/>

(株)ミツマ・ミュージックプロダクツ 京都・三条京阪駅前 Tel. (075)761-1213

京都フィロムジカ管弦楽団 第6回定期演奏会

Kyoto Philomusica Orchestra The 6th Regular Concert

《トリスタンとイゾルデ》より
「前奏曲」「愛の死」
TRISTAN UND ISOLDE Vorspiel , Liebestod
ワーグナー
R.Wagner

「カルメン」第2組曲
CARMEN SUITE NO.2
1.密輸入者の行進 Marche des contrebandiers
2.ハバネラ Habañera
3.闘牛士の歌 Chanson du Toréador
4.衛兵の交代 La Garde Montante
5.ジプシーの踊り Danse Bohême
ビゼー
G.Bizet

《 休 憩 》

交響曲第4番 変ロ長調 作品60
SYMPHONIE NR.4 B-DUR OP.60
1.Adagio-Allegro vivace
2.Adagio
3.Allegro vivace
4.Allegro ma non troppo
ベートーベン
L.v.Beethoven

客演指揮：高谷光信

2000年1月9日(日) 14:00開演

京都府長岡京記念文化会館

後援 京都府
楽譜協力：トヨタ・ミュージック・ライブラリー

携帯電話等の電源はお切り下さい。場内での飲食・喫煙・撮影等をご遠慮下さい。

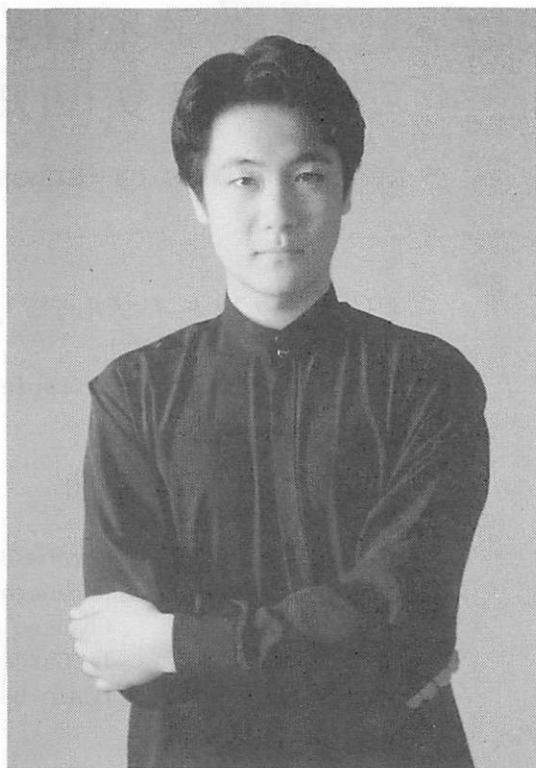
MESSAGE

指揮者 高谷光信

フィロムジカとの出会いは、当団の客演指揮を務められた蔵野雅彦先生のアシスタントとして練習会場を訪れたときだった。その若さと活気にまるで大学オーケストラを思わせるようなエネルギーを感じ「いつの日か共演できれば…」という気持ちをこれまで持ち続けてきた。その後フィロムジカのアシスタントコンダクターとして約4年間、彼らと様々な経験を積み、時には苦悩し喜びあいながら共に成長してきたように思う。

本日演奏する第1曲目では、心から愛しているのにその溢れる想いを伝えきれない‘切なさ’を、第2曲目では、カルメンの激しく燃えるような‘情熱’を表現したい。そして最後の「交響曲第4番」では、「英雄」「運命」両交響曲に挟まれながらも少しも曇ることのない‘ベートーヴェンサウンド’をお届けしたいと思っている。

最後になりましたが、オーケストラメンバー、スタッフ、そして今日この演奏会にお越し下さいました皆様方とここ長岡京記念文化会館で出会えたことに感謝し、このような素晴らしい機会を与えて下さった全ての方々に厚く御礼申し上げます。



Profile

京都市立堀川高校音楽科（現、京都市立音楽高校）を経て、大阪音楽大学音楽学部卒業。在学中より大阪音大カレッジオペラハウス公演・広上淳一指揮「トスカ」や同大学学生選抜オペラ・松尾昌美指揮「フィガロの結婚」に指揮スタッフとして参加、研鑽を積む。1996年、1998年にロシア・マリエル国立歌劇場主席指揮者であるV. プラソロフ氏より指揮のレッスンを受ける。

また1998年、京都フィロムジカ管弦楽団のスプリングコンサートにおいてベートーヴェン交響曲第7番を客演指揮し、成功を収めている。

現在、京都子供の音楽教室をはじめ、多くのオーケストラ、合唱団の指導にあたっている。指揮を伊吹新一、田中良和、蔵野雅彦、V. プラソロフの各氏に師事。

プログラムの曲が決まるまで

きょうはプログラムの曲目がどのように決まっていくのか簡単に紹介します。

フィロムジカ管弦楽団では2年に1回大曲に取り組みます。今回は2000年12月にマーラー交響曲第5番を演奏することが決まっています、その目標に向かって各回演奏会のテーマを考え、進めています。今日の演奏会では古典（ベートーヴェン第4番）を取り上げて基礎技術の鍛錬につとめ、次回演奏会ではマーラーに近い時代の作品を演奏します（ショスタコーヴィチ第10番）。

曲は団員から希望曲を募り、選曲会議で各セクションの代表が話し合った上で4～5曲に絞り、最終的には団員投票で決めています。フィロムジカではいわゆる名曲にとどまらず、「知られざる名曲を発掘し、聴衆に提供する」ことを考えており、自分たちがどんな曲を演奏していくのかということに対し、団員はみな真剣に考え、討論しています。

今日の演奏がどのようにみなさまに伝わるか楽しみです。これからも当団のコンサートに足を運んでくださることを願っています。

演奏委員長 Hr. 長岡武志

Thankyou Print Thankyou Print Thankyou Print

- 印刷物のことならお気軽にご相談下さい
- 見積りだけでもOKです
- 親切・丁寧・安心

印刷

三究プリント

〒621-0815 亀岡市古世町3丁目9-6
TEL (0771) 23-7339
FAX (0771) 24-7945

Thankyou Print Thankyou Print Thankyou Print

世界の銘器をあなたのもとへ...
あなたのパートナー選びは
ドルチェ楽器がお手伝いいたします。



管楽器専門店 株式会社ドルチェ楽器
〒530-0013 大阪市北区茶屋町1-1 共信梅田ビル2-3F
tel 06-6377-1117 fax 06-6377-1233
営業時間：10:30～19:30 定休日：毎週木曜日
インターネットホームページ <http://www.dolce.co.jp>

ヴァイオリン・ヴィオラ・チェロ 修理・調整・製作・輸入・販売

イチイヒロキ violin workshop

ヴァイオリニスト&製作家として、イタリア生活9年の経験が、あなたの演奏をお手伝いします。弦3割引。現柱、駒、糸巻きなど軽微な調整はその場で無料にてしております。お気軽にお越しください。

- ◆ 出町店 〒602-0825、京都市上京区寺町通今出川上ル表町31
- ◆ Tel & Fax: 075-251-0724 携帯電話: 090-3628-0863
- ◆ e-mail: hiroki@violin-workshop.com <http://www.violin-workshop.com>



Violin Shop

VIOLIN VIOLA CELLO & BOW 販売・製作・修理・調整

渡辺弦楽器工房

京都市中京区高倉町上ル福屋町728-4 〒604 ☎075-211-0116
西宮市大井出町7-23 〒662 ☎0798-70-2006
FAX 0798-70-2009

曲目紹介

ヴァーグナー／『トリスタンとイゾルデ』から「前奏曲」「愛の死」

調性を敢えて曖昧にする無調音楽の先駆となった歴史的傑作である。特に開始直後に登場する木管の半音階上昇に、その手法の効果が端的に現れている。

この楽劇のテーマは、媚薬の魔力によって引き起こされた、王の忠臣トリスタンと王妃イゾルデとの倫ならぬ愛である。木管による半音階音型はこの媚薬を表すモチーフである。しかしながら、愛の本当の原因は、理性をもってしても抗うことができない人間の奥底の感情であり、媚薬はその象徴に過ぎない。理性に対する「愛欲」、意識に対する「無意識」、昼に対する「夜」、といった、「陰」として疎まれがちな事柄を象徴し、そこに潜む人間本来の感情を剔り出す。人間の奥底の感情を剔り出し、斬新な音楽でそれを表現するヴァーグナーの姿勢は、R. シュトラウスの楽劇、マーラーやショスタコーヴィチの交響曲などに受け継がれていく。

二人の愛は悲劇を迎える。不倫愛を責められ重傷を負った瀕死のトリスタンのもとにイゾルデが駆けつけ、後を追って死ぬことで愛を成就させる。彼女が最後に歌う「愛の死」の歌は、死という最悪の悲劇と愛の成就という至福とが融合した、不思議な、しかし崇高な音楽である。本日はイゾルデ役のソプラノは使わないが、この音楽の崇高さを伝えるのに歌手は必要無い。物語は言葉ではなく「音楽」が語るのであり、それ故、歌劇ではなく「楽劇」と呼ばれるのである。

(曲目推薦者 Tp. 遠藤啓輔)

ビゼー／「カルメン」第2組曲

作曲家ビゼーは、19世紀フランス音楽の誇る叙情詩人である。1838年、パリに生まれた彼は、音楽家の両親のもとで育ち、10歳でパリ音楽院へ入学、グノー、アレヴィなど先輩作曲家に学んだ。彼は劇音楽、管弦楽曲などの分野で非常に印象的な作品を残している。組曲「カルメン」は、彼の代表作である歌劇「カルメン」から編曲されたもので、前奏曲、間奏曲中心の第1組曲、劇中の音楽中心の第2組曲からなる。舞台はスペイン、セヴィーリャ。魅力的なジプシー女カルメンと竜騎兵伍長ドン・ホセとの間に繰り広げられる悲劇のあらすじはあまねく知られるところであろう。

密輸入者たちの行進 ホセがカルメンのために軍人の地位を台無しにして、ジプシーの密

輸入者達に仲間入りした場面の行進曲。弦のピチカートの上にまずフルートがどこか不気味なテーマを奏し、それはヴァイオリンへ、そして木管群へと引き継がれて曲は進む。
ハバネラ “恋は野放しの小鳥、手なずけることなど誰にもできぬ” 第1幕でカルメンは、ホセに盛んに色目を使ってこう歌う。チェロの奏する独特のリズムに、美しくも何だか胸騒ぎのする旋律が乗せられる。

闘牛士の歌 ホセの恋仇、闘牛士エスカミーリョが歌う勇ましい歌。誰しも耳にした事のある、馴染み深い旋律である。

衛兵の交代 第1幕でホセが登場する際のマーチ。遠くでラッパが鳴る。それに応えてこちらの詰所でラッパが鳴る。そして始まる軽快な鼓笛行進曲。ビゼーの情景描出の巧みさが窺える。

ジプシーの歌 全幕を通して、最も異国色の強い曲。ジプシーの集う酒場で、酔った男女が踊り出す。次第に調子づいて速度を増し、興奮の渦中でこの組曲は締めくくられる。

(Vn. 田村うらら)

ベートーベン／交響曲第4番 変ロ長調 作品60

この交響曲は、草稿によると1806年に完成されている。これは「傑作の森」と評せられる、ベートーベンが多くの優れた作品を生み出した時期に相当する。交響曲第3番「英雄」を完成させた後、彼は交響曲としては現在の第5番「運命」に着手した。その「運命」を中断して、比較的短期のうちに第4番が作曲されている。このことはさまざまな推測を呼んだ。例えば、「英雄」に続いて「運命」のような新しい衝撃的な作品を発表すると、一般の聴衆がついてこれず、不利益になるので古典的な曲を作っただとか。第4番はオッペンズドルフという貴族に献呈されているが、彼に「運命」をくれてやるのは惜しい、と思っただとか。あるいは、この時期ヨゼフィーネ・フォン・ダイム伯爵未亡人との恋愛関係にあったため、優雅でロマンチックな曲を作っただとか。本当のところは何もわからない。どの推測が当たっていようがはずれていようが、結局の所、作品そのものとは関係がない。

この曲を表現しようとする、どんなことばも安っぽくそぐわないものになってしまう。ただ言えるのは、この曲が適切な評価を受けていないということだけである。曲は4つの楽章から成る。

(曲目推薦者 Vc. 小松正明)

バイエルン国王ルートヴィヒⅡ “トリスタン” 初演の陰に

ミュンヘンからザルツブルク方面の区間急行で1時間ほどにあるプリーンPrien は、キーム湖Chiemseeに面する美しい街である。湖岸から船で十五分で、ヘルン島Herrninselに着く。私がここを訪れたのは九月の半ば。今年は何年にもなく天気がいい日が続き、やや暑さを感じたが、この日は小雨のぱらつく曇りの日で、本格的な秋の到来を感じさせた。木立の中を半時間近く歩くと、突然視界がひらけ、力強い噴水と彫刻に彩られた庭園、そして豪華な宮殿が現れた。ヘルンキームゼー城である。曇天の中、孤独に構えるさまに、私は逆に陰鬱になり、この宮殿の主であったバイエルン国王ルートヴィヒ二世の胸中を思わずにはいられなかった。

1845年8月25日、彼は誕生した。彼の父母はバイエルン王家の皇太子マクシミリアンとプロイセンの王女マリー。幼少の時代のほとんどを、アルプスの山並みに抱かれた城、ホーエンシュヴァンガウHohenschwangau で過ごした。彼は夢見がちな少年で、早くからロマン主義芸術の世界に活発な興味を示した。

有名なりヒャルト・ヴァーグナーへの傾倒は、彼が十六歳の時、「ローエングリーン」の上演に接したことに端を発している。

…舞台は十世紀のアントワープ。ブラバント公国の姫エルザは、貴族テルラムントの陰謀に陥る。危機に陥ったエルザのもとへ、白鳥の曳く船に乗ってなぞの騎士が現れる。彼は決してエルザに自分の名前を尋ねないという約束で、彼女を助けるべく、テルラムントと戦い勝利する。しかし、敵の魔性の妻オルトルートにそそのかされ、エルザは禁じられた問いを発してしまう。騎士はその気高き素性を明かし、彼女のもとから去る…。

白鳥の城の若き主は夢中になった。(シュヴァンSchwann =白鳥) 彼は若干十八歳で皇位継承するや否や、債権者と官憲から逃げ回っていたヴァーグナーを捜させて、ミュンヘンへつれてくるよう命じた。ヴァーグナーは最強のパトロンを得て、翌年「トリスタンとイゾルデ」をミュンヘンで初演し、若き国王もヴァーグナーの意向を反映した劇場と音楽学校の創建に着手しようとした。しかし、保守的な人々の強い抵抗に遭い、たった一年半で国王はヴァーグナーにミュンヘンを去るよう命じなければならなくなった。ヴァーグナーは以前ドレスデンで革命に参加した過去の持ち主で、フランツ・リストの娘コジマとの不倫が進行中であった。その上、国王の威をかさに着て贅沢三昧な暮らしをしておる！これはスキャンダルにならないはずはなかった。

さらに追い討ちをかけるかのように、1866年、プロイセンとの戦いにわずか三週間で敗れ、屈辱的な和約を結ばされた。従軍した彼の弟ottoは、重い心の病を発病した。彼は次第に政治に興味を失い、ミュンヘンを離れ、北アルプスのふもとで築城に熱中するようになった。あの有名なノイシュヴァンシュタインNeuschwanstein 城はこの時期に着工された。その名の通り、「ローエングリーン」の世界である。内装は白鳥をモチーフにしたものが主で、彼一人が楽しむための豪華な小オペラ劇場まで備えている。

1868年、ミュンヘンで「ニュールンベルクのマイスタージンガー」が初演された。ヴァーグナーはミュンヘンを離れた後も、国王の援助を受け、精力的に活躍していた。その後も、超大作「ニーベル

ングの指輪」を書きながら、これを上演するための専用の劇場を建設しようと考えた。彼は、北バイエルンの小都市バイロイトをその地を選び、まったくの独力で建築を始めた。このころから、国王とヴァーグナーの仲は疎遠になりはじめた。国王は、ヴァーグナーのオペラに対し、演劇的な要素への思い入れが激しすぎたため、音楽への配慮を時に犠牲にした。例えば、歌唱力のある歌手の代わりに、容姿端麗な歌手を起用するよう圧力をかけたり、オペラを都合よく分断して上演させようとしたりした。そのようなことは、作曲家としての良心が許すはずも無く、次第に、国王の干渉を嫌うようになっていたのである。



その間北ドイツのプロイセン帝国は、名宰相ビスマルクの「鉄血政策」の下、勢力を拡大していた。普仏戦争の勝利の後、1871年プロイセン国王がドイツ皇帝としてヴェルサイユで勝ち名乗りをあげた。これは、ルートヴィヒが「国王」から「諸侯」へ転落することを意味し、生まれつきの国王であった彼にとって、我慢ならないものであった。事実、ドイツ皇帝を認める文書へのサインを、長い間渋っていたが、臆病風に吹かれた当時の内閣が彼をだますようにしてサインをさせたのであった。彼はますます世間から遠ざかるようになり、築城に情熱を燃やすようになった。そのため、国の財政は年々悪化の一途をたどっていったが、大臣たちは国王の逆鱗に触れるのを恐れ、財政の問題について全く説明しなかった。

そして運命の年が来る。1886年、首相ルッツはバイエルン州議会で鋭い追及を受けた。彼は自分の地位がこのままでは危ういと感じ、自らの保身のため、一計を案じた。息のかかった医師を集めて、国王が精神病であると発表させ、廃位させようとしたのだ。6月10日早暁、医師と政府関係者からなる委員会は、でっち上げの診断書を持って、国王のいるノイシュヴァンシュタインに向かった。ルートヴィヒは彼らを逮捕し、城の中にある牢獄に監禁した。彼の忠実なる部下の一人は、ミュンヘンに戻り国民の前で演説をするよう進言したが、彼には大嫌いなミュンヘンに帰ることはどうしてもできなかった。結局、委員会のメンバーをそのまま釈放し、最後は召し使いの裏切りにあい、彼は生涯で最も屈辱的な日を、ノイシュヴァンシュタインで迎えることになる。6月12日、彼はシュタルンベルク湖に近いベルク城に移送された。部屋という部屋には覗き窓が施され、窓には鉄格子がはめられていた。しかし彼は最期の日を平静に過ごした。

翌日夕刻、ルートヴィヒは一人の医師を引き連れ最期の散歩に出た。その夜遅く、彼は医師と共に湖で水死しているのが発見されたのだ。この事件について、真相はいまだ謎のままだ。

ヘルンキームゼーの「鏡の間」を目にして考えをめぐらす。彼にとって「孤独」の持つ意味は何だったのだろうか？たしかに、彼は「孤独」になることで周囲の不理解から自らを守ったのかもしれないが、「孤独」がもたらす寂寥は彼を徐々に蝕んでいったに違いない。私は夜の闇が迫らないうちに、踵を返した。

(Vn. 津田篤太郎)

御装束 絡子の
お仕立に

京都、日吉町 吉野 隆
TEL 0771(73)0193



阪急長岡天神駅前
Tel/Fax 075-951-0362



For School, Business or Pleasure
ア・ブ・ク・ド・イングリッシュ スクール
小学生から大人迄の英語専門教室
〒607 地下鉄 東西線 御陵駅 下車
徒歩 3分 協和荘301~302
TEL + FAX 075-593-4426



ゆったりのんびりくつろげます

湯楽荘

料理
和食中心です

観光に・仕事に・学生さんの合宿にどうぞ
近くに市の体育館・競技場・テニスコートあり
夏は庭で炭火バーベキューを
楽しんでいただけます

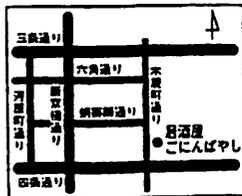
電岡市碑田野町柿花吉岡32 京御交通柿花バス停近く
☎(0771)22-1030(代)

居酒屋 ごんげん



PMS:00~深夜12:00
(土・祝日前~AM2:00)

4~100名 宴会受付中
中・木屋町四条上ル
☎(075)221-3517



合宿・研修に、ぜひどうぞ!!

びわ湖 千鳥荘

滋賀県滋賀郡志賀町南浜 403
Tel/Fax (077) 594-0035



京都府知事登録第6号
日本教育旅行
京都市下京区烏丸七条上ル一筋目東入
☎0120-040566

合宿・ゼミ旅行・スキー・海外旅行 etc
お気軽にご相談ください

京都フィロムジカ管弦楽団

Kyoto Philomusica Orchestra

Concertmaster

田村 うらら
大八木 文人

Violin

天澤 天二郎
荒川 奈央子
井上 あゆみ
井上 理恵
永徳 文
越後 美和
荻野 衣美子
小幡 拓也
木下 知子
小段 南人
津田 和子
津田 篤太郎
中島 円
西村 浩輔
藤本 亜美
堀口 真仁
真下 朋子
宮下 康子
吉野 仁子
吉本 光佐
磯貝 文彦*
小田根 宏明*
小久保 あおい*
子安 建*
高橋 淑子*
田辺 明子*
廣瀬 知華*

Viola

植木 廣伸
河上 由香里
篠崎 淳
中谷 祐子
平石 美緒
池田 有佳*
小川 一啓*
神谷 透*
原田 久美子*
藤井 渉*
安原 二郎*
横谷 環*

Violoncello

海野 香織
小川 優香
小野田 税
菊地 涼
小松 正明
田中 智之*
石黒 豪*
高津 史子*
田村 美佳*

Contrabass

今城 和久
ジョン・グリーンソール
井上 ゆか*
山岸 寛志*

Flute & Piccolo

逸見 正憲
政岡 潤平
松村 朋美

Oboe

中西 充弥
大薮 裕美恵*

English horn

相宮 香奈子*

Clarinet

武田 勝正
田中 慎一郎
野田 瑠美

Bassoon

高山 泉
廣岡 美紀
卒野 圭美*
矢野 智子*

Horn

芦原 俊平
木下 高好
木下 洋輔
長岡 武志
安田 聖
吉野 文彦

Trumpet

遠藤 啓輔
小林 香篤
濱田 篤
村上 明日香
渡辺 美智子

Trombone

川原 靖弘*

Tuba

越智 洋平*

Timpani &

Percussion

北村 嘉美*
田居 聖子*
武田 太蔵*
平尾 真樹子*
松尾 亮*

Harp

内田 奈織*

*客演

顧問

和田 之宏

団長

小林 香

事務

伊吹 勇亮

弦トレーナー

田畑佳子 京都市立芸術大学卒。1998年三重バウハ合奏団 2nd主席奏者をつとめる。西日本出身新人紹介演奏会出場 テレビ西日本賞受賞。
吉野美穂 京都市立芸術大学卒。バイオリンを木村直子・岸辺百百雄、室内楽を種田直之・河野文昭・久合田緑の各氏に師事。

管トレーナー

石橋耕三 東京芸術大学卒。お茶の水女子大学付属中学校講師を経て、京都市交響楽団入団現在に至る。クラリネットを三島勝輔・千葉国夫・浜中浩一の各氏に師事。
山崎雅夫 京都大学卒。京都大学交響楽団金管・打楽器トレーナー。トランペットをC. マクベス・A. ハーゼス・M. アンドレの各氏に師事。

第7回定期演奏会

2000年6月4日(日) 長岡京記念文化会館 指揮:遠藤浩史

ショスタコーヴィチ/交響曲第10番 ほか

第8回定期演奏会

2000年12月10日(日) 京都コンサートホール

マーラー/交響曲第5番 ほか

賛助会員募集中

フィロムジカの活動に協賛して下さる方を募集しています

〈特典〉

年2回の定期演奏会にご招待。
会報にて演奏会などのご案内をします。

〈年会費〉

個人会員: 4,000円/1人
Jr.会員(高校生): 2,000円/1人

興味がありましたら、

廣岡—Tel. 075-682-8175

政岡—Email gh0038@mail2.doshisha.ac.jpまでお気軽にどうぞ。

新入団員募集中

〈募集パート〉

ヴァイオリン, ヴィオラ, チェロ,
コントラバス, オーボエ, ファゴット,
ホルン, トロンボーン, バストロンボーン,
ティンパニ (弦楽器以外はオーディションあり)

<スタッフ同時募集>

〈活動〉

毎週日曜日 午後1時~5時
河原町丸太町周辺 (ここに事務所があります)

入団費 5,000円 団費 3,000円/月

社会人と学生と一緒に頑張っているオーケストラです

連絡先 河上 Tel. 075-744-2158

Email yukarikk@ky.xaxon.ne.jp